

クラス会だより・色染昭53

平成24年 忘年クラス会

12月30日に毎年恒例の色染53年卒の同窓会が、南森町の大阪天満宮近くのキーストーン(ラウンジ)を借り切って開催されました。今回は、同窓生9人の参加と、店のマスターも特別会員として参加し、合計10名での開催となりました。

平成23年の1月に、同級生の鋒山(ほこやま)君が急逝したことを同窓会誌の物故会員名簿から知り、院生時代も共にした藤田君が約5年ぶりに参加いたしました。鋒山君は、学生時代、アメフト部に所属し、華奢な体格ながら、きついランニング練習にも、気を失う寸前まで頑張りつづけた勇姿を皆で偲びました。

今年もとりとめない話で盛り上がり、お酒がすすみました。飲みすぎると、31日がしんどいとわかっているにもかかわらず、毎年、飲みすぎます。浜松から、新幹線でとんぼ返りで参加した、紅一点の西村女史が、学科入学時のオリエンテーションの時に、各自が書いた自己紹介文集を持参してきており、皆で懐かしく読みました。それぞれ個性ある青年たちであったことが記録されており、色が褪色したその文章の保存方法についていろいろな意見が出ました。ただ、ほとんどの者が自己紹介を自己紹介と誤記しており、国語力の低さを露呈しておりました。また、当時の担当教官が書いた黒板の文字が間違っていたのでは?という説もあり、皆で大笑いし、来年も再開することを誓いお開きとなりました。(文責 高橋)

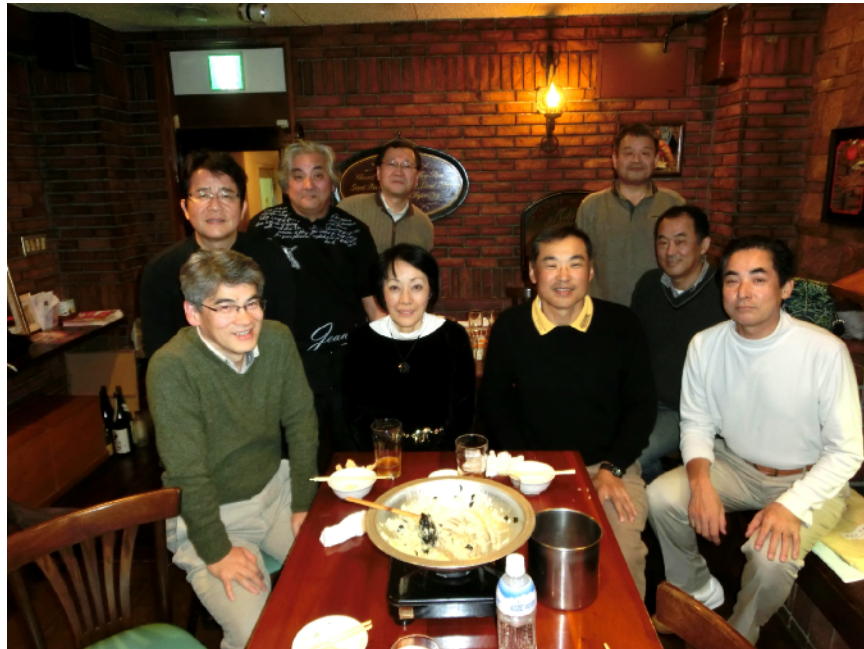


写真 前列左より 藤田 西村(旧姓 梶原) 藤村 長井
中列左より 高橋 角 伊山
後列左より 前田 森川 (撮影 店のマスター)